

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆世界経済の成長率、26年2.1%に急減速の可能性 OECDが警鐘

・経済協力開発機構(OECD)は経済見通しで中東の混乱が長期化した場合、2026年の世界の経済成長率が早期収束に比べ0.7ポイント低い2.1%になると予測。「一部の国は景気後退に陥る」と警鐘を鳴らした。世界の実質GDP(国内総生産)成長率が仮に2.1%に低迷すれば、25年の3.4%から大幅な減速となる。

◆工具業界団体、廃タングステンの海外流出防止へ ガイドライン改定

・工具メーカーなどの業界団体の日本機械工具工業会はタングステンでつくる超硬工具のスクラップが海外に流出しないよう、関連するガイドラインを改定したと発表。中国がタングステンの輸出規制を強化していることから、中国に依存しないリサイクル網の構築を目指す。タングステンは中国が世界シェアの8割を握る。

◆25年出生率は過去最低1.14、10年連続低下 出生数も最少の67.1万人

・厚生労働省が発表した2025年の人口動態統計(概数)によると、1人の女性が生涯で産む子どもの数を示す合計特殊出生率は1.14。24年の1.15から0.01ポイント下がり、過去最低を更新。低下は10年連続。25年に国内で生まれた日本人の子どもは67万1236人で、24年より1万4937人(2.2%)減。1899年の統計開始以来、最も少なかった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆生コン出荷量、4月8.2%減 大都市圏で振るわず

・全国生コンクリート工業組合連合会がまとめた4月の全国生コン出荷量は前年同月比8.2%減の486万3538立方メートル。前年を下回るのは44カ月連続。首都圏や近畿、東海など生コン需要の多い大都市圏で出荷が落ち込んだことが響いた。全体の約7割を占める民間工事は6.7%減だった。公共工事など官公需は12.0%減った。

◆蓄電池産業の売上高、2035年に3倍の約5兆円へ 経産省が戦略改定

・経済産業省は日本企業の蓄電池に関連する国内外での売上高を2035年に25年の3倍となる約5兆円に増やす目標を公表。人工知能(AI)のデータセンターやロボットといった幅広い用途での活用を見込み、関連産業の競争力強化を狙う。日本の蓄電池は電力需要の急変動に対応する機能に強みがあり、性能をさらに高め付加価値の向上をめざす。

◆三菱電機、エアコンのレアアース再利用 新規調達35%減

・三菱電機は信越化学工業などと家庭用エアコンに含まれるレアアース(希土類)を再利用する取り組みを始めたと発表。三菱電機は年約23万台のエアコンを回収しており、レアアース調達量を重量ベースで35%減らせる見通し。関係会社が分解したエアコンのパーツから、産業廃棄物の中間処理などを手掛けるエコアドバンスがレアアース磁石を回収。

《 注目商品 》

■コーリアン製洗面カウンター・ボウルに3つの新型

・エービーシー商会はコーリアン製の洗面カウンターと洗面ボウルの新タイプを発売。アクリル系人工大理石・コーリアン素材の洗面カウンター「STB-Deck420」、洗面ボウル「SN490-P」「DS538D」をラインアップ。ボウルは1色、カウンターはコーリアン全色から選べる。



■アルメタックス、薄い壁にも設置可能なリモコン収納

・リモコンを一カ所にまとめて集約するアルミ製ニッチ収納。一般的な壁厚130mmの約半分の壁厚70mmの薄い壁にも設置可能。枠の見付け7mmの極細のアルミフレームを採用し、シャープなエッジのすっきりとしたデザイン。



■パロマ、コンパクトなハイブリッド給湯器 HYBRID PLUS(ハイブリッドプラス)

・オリジナルの「エコロジタンク」を搭載することにより、熱エネルギーの放熱ロスを最小限に。業界初のコンパクトな2ユニット構成により、時短施工を可能に。一体型にしたことで、設置面積約0.45㎡、奥行42cmの省スペース設計を実現。

